

CLUB NEWS

2017-2018年度国際ロータリーテーマ／ロータリー:変化をもたらす

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック 山形中央ロータリークラブ 「山形中央ロータリークラブのこれまでの伝統文化を尊重して、地域の若者とともに、ちよっと社会奉仕」

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30～13:30(但し第5週は18:30～) 会場 ホテルメトロポリタン山形

■ 会長 奥山 宏	■ 職業奉仕 斎藤 真	■ 副幹事 本間 雅之
■ 会長エレクト 中川 清美	■ 社会奉仕 朝倉 克尚	■ 会計 本間 雅之
■ 副会長 伊藤 和子	■ 青少年奉仕 阿部 美春	■ S A A 今野 久仁正
■ 直前会長 小泉 俊哉	■ 国際奉仕 新沼 悟	国際ロータリー会長 イアン・H・ライズ(オーストラリア)
■ クラブ管理運営 玉ノ井 憲史	■ 幹事 石山 徳昭	第2800地区ガバナー 鈴木 一作(寒河江)
		第5ブロックガバナー補佐 須藤 吉実(山形伊達)



ロータリー
変化をもたらす

◆日時／2017.7.18.12:30 ◆例会場／ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング／それこそロータリー

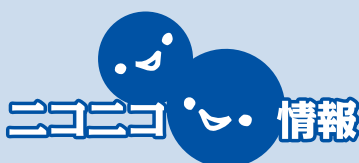
会長挨拶



本日のゲストに、明正高等学校のインターアクト部顧問の佐藤先生をお招きしております。

今年度の大きな事業であります、植樹事業に、明正高等学校の生徒たちにも手伝って頂けるようお願いしております。青少年に対する活動は、近年途絶えておりましたが、この機会をもとに活動が深まることを期待しております。

私事ではありますが、8年前、インターアクトの活動で、地区に向かわせて頂きました。若者の生き生きした活動、女性生徒の、素晴らしいリーダーシップ、真摯に奉仕活動をする姿に感動を覚えました。また、若者の食に対する変化にも驚きを感じました。若者のたちと、一緒に事業をやることで、お互いを刺激しあい、いろいろなことが学べると思います。この機会を大切に、継続的なものとして頂ければ、もうちょっと違った世界を、体験できるのではないのでしょうか。



奥山 宏・石山徳昭／佐藤友美先生卓話ありがとうございます。これからもよろしく願います。

朝倉克尚／マツダミヒロ主催の魔法の質問認定マスターに認定されました。よろしく願い致します。

長谷川淳／涼さを求めりんりん会で北海道ツー

リングに行ってきました。ところが連日35℃超の日本で一番暑い場所になっていたようです。北海道を離れた直後にゲリラ豪雨で被害も出ているようで、最高に良いタイミングで最高に良い仲間と行けて幸せなひとときでした。

三浦龍夫／会員増強シートよろしく御願い申し上げます。情報提供してくれた委員会に感謝。

丹野秀樹・小泉俊哉／北海道1,500km、無事完走してきました。参加した人があつかったのか北海道超暑かったです。又行きたいよー。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	40名	—	21名	—
修正出席	40名	30名	28名	93.33%
他クラブでメイクアップされた会員				



ゲスト卓話 山形明正高等学校 インターアクト部の活動について

山形明正高等学校 インターアクト部顧問 佐藤友美氏

本校の概況

本校は、昭和36年「山形自動車工業高等学校」として、自動車科のみの学校としてスタートした。翌年、「蔵王工業高等学校」に改称し、昭和39年に山形市飯田に移転する。

創立30周年の平成3年には、「蔵王高等学校」に校名を変更し、翌年には、普通科を設置し、自動車工学科・情報機械科・普通科・自動車工学専攻科の4学科を擁する男女共学の総合高校になる。

そして、創立50周年を機に、平成23年、校名を「山形明正高等学校」に変更し、校舎を国道13号線沿いに移転した。

現在、本科生544名(男子393名 女子151名)専攻科生36名(男子35名 女子1名)の生徒が在籍している。

インターアクト部は、以前、国際交流サークルとして活動していたが、平成19年度に部活動新組織の立ち上げにより、名称が変わり現在に至る。現在部員、男子4名(昨年は11名)、顧問2名で活動を行っており、新入部員の確保が課題となっている。

○近年の活動内容○

前顧問(英語科教諭)がカンボジアやパラグアイの研修ボランティアに参加していたころは、海外の学校事情を学び、学園祭でパネル掲示をしたり、愛の鉛筆運動、サッカーボールの寄付、松ぼっくりツリーのプレゼントを行っていました。現在は主に、

地域・福祉のボランティア活動を中心に行っています。

募金活動として、

年2回(春・秋)あしなが学生街頭募金活動、盲導犬育成ための募金活動(盲導犬協会主催)、24時間テレビ募金活動など

施設ボランティアとして、

秋まつりのお手伝いや折り紙教室。学校近くの高齢者施設に出向いて、飛翔鶴や新聞紙でエコバックづくり、手作りカレンダー(ぬりえを利用者さんと一緒に完成させる)作成、学童クラブでの簡単工作(夏休みにエコシールやエコバック制作や新聞紙遊び等)、クリスマス近くには、学校近くの福祉施設や山形聾学校に松ぼっくりツリーやカードをプレゼントし交流を行っています。

美化活動として、

スポーツゴミ拾いへの参加、週1回通学路の清掃活動

啓発活動として、

「山形県ALSを考える会」の協力ボランティアのもと、ALSの認知度を上げる活動(パンフレット作製やイベントへの参加)

その他として、

障がい者スポーツ大会のボランティア、おひさまボランティア、グリバーさがえスタッフボランティアなど

近隣クラブ例会案内

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
山形西 大沼デパート 中山 ひまわり館 天童西 ホテル王将 山形イブニング パレスグランデール	山形南 ホテルキャッスル 山辺 料亭さつき 寒河江さくらんぼ ホテルシンフォニー	山形 山形グランドホテル 上山 山月岡ホテル 天童東 天童ホテル	山形北 山形グランドホテル 寒河江 グランデール寒河江	山形東 ホテルキャッスル 天童 滝の湯
※欠席したらメーカーアップ、メーカーアップしたら出席委員長までご連絡下さい。				



◆24時間テレビ募金活動

毎年、夏休み明けに24時間テレビ募金活動に参加しています。主に、イオンモールやジョイ北店でしていますが、人気アーティストと同じTシャツに身を包み、取材も入ることから、毎年楽しみにしている生徒が多い活動です。



◆あしなが学生募金活動(山形駅)

春と秋に災害遺児のための育英金の募金活動を行っています。他にH27は、東日本大震災の災害孤児の施設「レインボーハウス」設立のための募金、H28は熊本地震支援の募金活動、今年度はアフリカの孤児のための募金活動も大学生や他校生とともに行いました。



◆高齢者施設でのボランティア(ぬりえカレンダー)

お正月の折り紙教室も行っていますが、手先に力が入らなったり、視力の衰えを感じている方には難しいようです。そこで、部費でクーピーを大量に購入していただき、花のぬりえを完成させ、カレンダーを作る作業にしたところ、多くの方が一緒に参加できるようになりました。

普段からリハビリを兼ねて施設でも作業をして慣れてらっしゃるようでした。



◆学童クラブでの簡単工作(新聞紙エコバック等)

昨年度の夏休みには、蔵王一小近くの学童クラブにお伺いして、子どもたちと楽しみながら簡単な工作を行いました。80名近くの子どもたちを前に、生徒たちも不安でいっぱいでしたが、子どもたちの笑顔とパワーに時間を忘れ、一緒に楽しんできました。以前は、高齢者施設で新聞紙でエコバックを作り好評でしたが、子どもたちは、ポケモンやディズニーのぬりえを切り貼りに可愛いオリジナルバックを作っていました。



◆通学路周辺のゴミ拾い(週1回)

学校の目の前には、13号線バイパスや国道があり、ポイ捨てされた吸い殻や空き缶が大量に落ちている時があります。また、本校生が落ちてしまったのではと思われる傘やお菓子の袋なども。地域の方々に気持ちよく生活していただくためにも続けて行っています。人数が少なくても出来る活動なので活動回数が多くなることもあります。



◆スポーツゴミ拾い

年数回、「美しい最上川フォーラム」が開催しているスポーツゴミ拾いに参加しています。

毎回、開催場所が天童総合運動公園や七日町、殿城公園周辺と変わり、色々な場所で楽しくごみ削減に向け活動を行うことができます。豪華?商品も魅力的ですが、街がきれいになって、気持ちよく利用してもらうことが何よりうれしいことです。過去には入賞歴もあります。



◆グリバーさがえスタッフボランティア(月1回)

今年度より、グリバーさがえのスタッフボランティアに参加させていただいています。5月は、障がい者トライアスロンの会場設営やエンドスタッフとして活動を行いました。

時間の合間には、水上バイクに乗せていただいたり、スタッフも楽しみながら活動を行うことができます。



◆最上フェスタのアクティビティ補助

7月8日(土)は、最上川フェスタがグリバーさがえで開催されました。学校の学年行事や子ども会行事で多数の来場者を迎え、炎天下の元でしたが、バナナボードや水上バイク、カヌー等のアトラクションの補助を行ってきました。他校生同士がボランティア活動を通じ、交流を深めることができ、団結力も生まれる行事です。

【ALSの周知活動について】

平成28年度の学園祭でALSの周知活動を行いました。部員の親戚にALSの患者さんがいたことがきっかけで、病状について調べると上げ、学園祭で周知活動を行いました。

ALS(筋萎縮性側索硬化症)は、体の感覚、知能、視力や聴力、内臓機能は健全のまま筋肉だけが衰え、最後には目も動かすことが出来なくなる難病で治療法も確立されていない。ALSに限らず、難病で苦しむ人を救うには、認知度を高めることで研究者の増加や新薬開発につながるのと知り活動に至りました

学園祭の前に全校生と先生方にアンケートによる認知度調査を実施しました。アイスバケツチャレンジをメディアで目にするも、何の目的でやっていたか知らなかった。ドラマやアニメの認知度は高いが、ALSについて取り上げていることを知らなかった。と言う声の大きいことが分かりました。

学園祭当日は、ゴロン体験(ゴロンと転がり、5分間動かないままの状態が一連続としたり...)を多くの人にしてみせ、ALSの疑似体験を行った感想をメッセージボードに貼ってもらいました。

これらの活動が縁でALS患者さんや「ALSを考える会」の皆さんと繋がることができ、患者さんとの交流やイベントへの参加を実施することができました。



*学園祭終了後は、もっと多くの人に周知しようとして、自分たちが調べ上げてきたことやアンケート結果をパンフレットにまとめ、山形県ALS協会やRDD2017(世界希少難病性疾患の日)で配布を行いました。



◆障がい者スポーツレクリエーション大会

毎年、夏に総合運動公園にて県内から身体に障がいを持っている方のスポーツレクリエーションが開催され、選手誘導や競技補助などを行っています。



平成29年度 インターアクト部活動内容			
学校名	山形明正高等学校		
活動名	分類	実施時期	内容
あしなが学生街頭募金活動	募金	4月29日/30日	病氣・災害・自死で親を亡くした子どもや重度後遺障害をもつため、働けない親のいる家庭の子どもの進学を支援するための募金活動に参加。
盲導犬ふれあい募金ボランティア	募金	時期は未定	イオンモールにて、盲導犬への理解、育成に関わる募金への呼びかけを行う。
グリバーさがえスタッフボランティア	その他	5月27日	パラトライアスロンの会場設営、エンドスタッフ他
		7月8日	最上フェスタ会場設営、安全監視、飲食補助等
		8月5日/6日	コンクリートカヌー-東日本大会
		8月27日	ドラゴンカヌー大会
		10月9日	コスモまつり
10月28日/29日	シクロクロス国際大会		
スポーツゴミ拾い	清掃	7月22日・随時	「環境にも優しいスポーツ」として、グループで歩きながら、各地域のゴミを集める。
オープンスクールにて活動紹介	その他	8月6日	中学生や保護者に資源の再利用を活動や展示で実感してもらう。
福祉ボランティア体験	福祉	8月7日~10日	1日目はボランティアに関する講習を受け、2~3日目は施設でボランティア体験、4日目振り返り研修。
障がい者スポーツレクリエーション大会ボランティア	地域	8月19日	総合運動公園にて選手誘導、招集、競技補助
24時間テレビ街頭募金ボランティア	募金	8月27日	募金会場に分かれ募金活動を行なう予定。
おひさま広場	福祉	10月7日	事前の道具制作と当日、障がい児と遊ぶ。
やすらぎの里秋祭り	福祉	10月上旬	会場設営、出店手伝い、利用者さんとの交流
オープンスクールにて活動紹介	その他	10月22日	活動報告展示と会場内で来校者と福祉施設に送る「松かきツリーづくり」等を実施予定。
ALSについての周知活動イベント参加	福祉	随時	イベントの手伝い、パネル掲示、パンフレット配布
学校周辺のゴミ拾い	清掃	通年	地下道・通学路の清掃活動を行なっています。
高齢者施設でのボランティア	福祉	通年	地区の高齢者施設での清掃活動、折り紙教室、イベントの手伝い等を行っている。
書き損じはがき等の回収	回収	1月・2月	ボランティア団体に寄付

CLUB NEWS

vol.
1126

2017-2018
MEETING

2017-2018年度国際ロータリーテーマ／ロータリー:変化をもたらす

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック 山形中央ロータリークラブ 「山形中央ロータリークラブのこれまでの伝統文化を尊重して、地域の若者とともに、ちよつと社会奉仕」

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30～13:30(但し第5週は18:30～) 会場 ホテルメトロポリタン山形

■ 会長 奥山 宏	■ 職業奉仕 齋藤 真	■ 副幹事 本間雅之
■ 会長エレクト 中川 清美	■ 社会奉仕 朝倉 克尚	■ 会計 本間雅之
■ 副会長 伊藤 和子	■ 青少年奉仕 阿部 美春	■ S A A 今野久仁正
■ 直前会長 小泉 俊哉	■ 国際奉仕 新沼 悟	国際ロータリー会長 イアン・H.S.・ライズ(オーストラリア)
■ クラブ管理運営 玉ノ井 憲史	■ 幹事 石山 徳昭	第2800地区ガバナー 鈴木 一作(寒河江)
		第5ブロックガバナー補佐 須藤 吉実(山形イオン)



ロータリー
変化をもたらす

◆日時／2017.7.25.12:30 ◆例会場／ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング／我等の生業

会長挨拶



皆さん今日は。

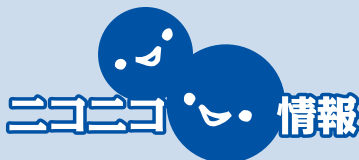
今日の例会は、久しぶりの会員卓話です。皆さん大変ご期待していたのではないのでしょうか。本当に楽しみです。三井住友海上火災保険株式会社 山形支店長 森 賢一さんです。森さんは、大島さんの後任で入会されました。地元企業の方の多い山形中央ロータリーでは、めずらしく中央の企業の方です。我々にとっては、あこがれの企業の方でありますし、エリート中のエリートでございます。普通ならお話しさえ、滅多にできない方であります。我々にとっても、中央の風を感じる絶好の機会と考えております。森さんにとっても、変な、田舎者の集まりと思わず、進んで参加して頂ければ、新鮮な体験ができると思います。

橋詰さん、弦本さん、松村さん、大島さんについていえば、皆さん共通点があったように思えます。皆さん、ゴルフをされていたようでした。私も、決してうまくはあり

ませんが、最初は同レベルだと思いましたが、山形を去るころには、皆さん、素晴らしいスコアで回られていました。それに加えて、皆さん豆でした。山形の事には、食、温泉、楽しいところ、美しいところを良く堪能されていました。中には、特に女性には豆な方もいらっしゃるような思えます。女性を愛でた方もいらっしゃるのかも知れませんが、そこは皆さんスマートな方ばかりでしたので、私は知る由もありませんでした。中央に戻られてからも、山形に一人で御出でになり、夜の街でお見かけされる方もいらっしゃいました。野暮な声掛けを控えたこともありました。

それに、皆さん時間の使い方が、上手いと思います。限られた時間をうまく使って山形の隅々まで堪能していたようです。是非、私にもそのノウハウを伝授して頂きたいと思います。

今日は期待しています。



奥山 宏・石山徳昭／森会員の卓話に感謝します。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	40名	—	18名	—
修正出席	40名	30名	29名	96.66%
他クラブでメイクアップされた会員				



会員卓話 育てる責任 学ぶ責任

森 賢一 会員

私は、初めての業務にチャレンジする若手社員の人材育成をしながら新たな組織の立ち上げを経験してきました。今回は、その経験を下敷きにして人材育成についてお話をさせていただきます。

人材成長の70%は仕事を通じた実際の経験から、20%は他者のアドバイスから、10%が本を読んだり研修を受けることからと言われています。つまり人が成長していくためには、日々の実際の仕事を通じた職場でのOJT(オ・ジ・ョブ・トレーニング)が最も重要となります。したがってOJTを実際に行う職場の上司(または先輩社員等)のスキルに大きく依存することになります。ところが、職場でのOJTの進め方は、一般的に教える側である上司の勘・経験・精神論といった自己流に任されています。

「業績の達成」と「人を支援し育てること」の双方に最大の関心を示すのが最も理想的な上司と言われています。しかし、上司も自ら日々の業務と大きな責任を持っているため人材育成に対して十分な時間や精神的余裕を持っていないのが実態ではないかと思えます。私たちは、上司だけでなく、先輩、同僚、部下など職場の仲間全員から影響を受けながら学習・成長しています。したがって職場のリーダーは、自分一人で直接、人材育成を行うのではなく継続的に人が育つ職場の組織風土を作っていくことが求められています。

人材育成をしていく上で、自分が気を付けていたスキルを3つほどお話しします。

一つ目は、適切なタイミングで仕事を任せるということです。

図表 I-1 ドレイファスの成長5段階モデルは、人が成長していくプロセスを「初心者→見習い→一人前→中堅→熟達者」という5つのステップで説明しています。若手社員は、初心者からスタートして当面の目標は、未熟だがとりあえず一人で仕事ができるようになる『一人前』レベルへ育成することが求められます。そして「状況に応じて自分で考え行動ができるリーダー格である『中堅』」を育て、さらにエース級の人材である『熟達者』を輩出することが人材育成における最終目標となります。



図表 I-1
ドレイファスの成長5段階モデル

熟達者: 状況を的確に判断し、直観で正しい判断ができるエース級の人材
中 堅: 微妙な状況の違いや例外へ対処できるリーダー格
一人前: 未熟ではあるが、ルーティンであればすべて一人で出来る
見習い: 状況に応じた対応ができるものの指導が必要
初心者: 原則を理解しつつも状況による原則の使い分けが出来ない

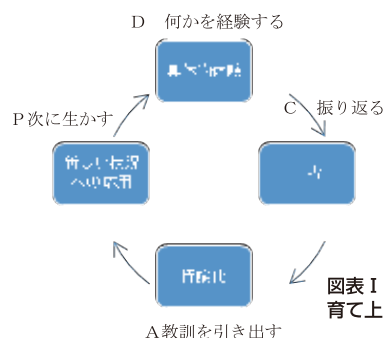
人材を成長させるには、本人の能力以上に適度にストレッチされた難易度の高い仕事を与えることが重要です。本人としては業務に慣れ易くなった仕事をそのまま継続させていたら、成長は止まってしまいます。反対に本人の能力に比べて難易度が非常に高い仕事を与えてしまうと潰れてしまいます。上司は、部下の成長度合と能力(できること)を常によく見ておき、少しだけ「成長度合<仕事の難易度」となるように配慮しながら仕事を任せていくことが必要となります。そのため上司はメンバーの成長を普段から良く観察しておき上位ステージに差し掛かったと思う時期を見逃さずに難易度の高い業務や役割を与えて任せていくことが必要です。

二つ目は、上司がプレイヤーとして自ら実際に「やって見せること」そして「行動の意味を解説して教えてあげること」、その後「自分で考えて実際にやらせてみること」そして様子を見ながら支援を少なくしていく繰り返しが基本として日常業務を通じて、時には叱咤激励を行いながら育成を行うことです。人材育成の学習モデルである「認知的徒弟制度」(図表 I-2) 4段階のサイクルを部下が初めての経験や新たな課題に直面するたびに、何度でも繰り返しながら出来るまで支援してあげることが必要です。

「認知的徒弟制度」

- ①模範を示して学習者はそれをみて真似をする(モデリング)
- ②手とり足取り指導して助言する(コーチング)
- ③できるところは独力でやらせてできないところを支援する(スキップフォールディング足場作り)
- ④支援を少なくして自立に導く (図表 I-2 「認知的徒弟制度」)

最後は、部下の「経験から学ぶ力」を育てるということですが。若手社員の経験から学ぶ力を高めていくためには、図表 I-4のPDCAのようなOJTサイクルを回していくことです。仕事を通じて経験(成功体験、失敗体験)を積んでも、振り返って考えて教訓を引き出し、次に生かす行動がとれないと、いつまでも単に経験をしているだけで、成長するスピードは遅いものになります。しかし、経験をした後にしっかりと振り返って、教訓を引き出すことができれば、次に生かすことができるため、成功を再現することができ、同じ失敗を繰り返すこともなくなり、成長のスピードが早くなります。このPDCAを回していくツールは、上司によるフィードバックを行うことです。フィードバックは、部下が成功体験や失敗体験など経験した後、適切なタイミングと頻度で行うことが大切です。



図表 I-4
育て上手の指導者の指導方法